



## コンクリート診断士のページ

## 関東支部

お仕事に役立ってますか？

宇野 洋志城

私は技術研究所に勤務しています。コンクリートに関わることは何でもするので、最近は施工トラブルへの対応が目立ちます。それには専門知識を駆使した判断が必要ですが、同時に判断の信用性を証明するための資格も必要です。この類の仕事にはコンクリート診断士の資格が重宝されています。発注者から有資格者を要望されることが多く、コンクリートに不具合が見つかると、いつもお呼びがかかるのです。アカウンタビリティーの重要性が問われる現在、信頼性の向上のためには有資格者が保証すべきことは多いなあと感じています。心情を吐露しますと、最近の若い技術者は資格を取ってくれません。現場でコンクリートを相手に調査のできる体力と能力のある技術者が少ないため、いつまでも最前線でお仕事をさせてもらっています。ありがたいことですが、寂しいことです。本当に必要な資格ならば、誰もが取得しようと努力するのでしょうか？まあ、とりあえず受験してもらわないことには。



うの・よしき／正会員  
佐藤工業(株) 技術研究所

診断から得た教訓

安本 礼持

コンクリートのひび割れ診断で得たひとつの教訓をご紹介します。

高層建築物への高強度コンクリートの適用が始まった頃、高強度コンクリートを打設したスラブ一面にひび割れが発生し、その原因推定の要請を受けました。現地調査の結果、初期乾燥によるひび割れと推測されたため、依頼者に高強度コンクリートはブリーディングが少なく風や日射による初期乾燥への対策が特に重要であることを説明しました。すると先方より『通常のコンクリートよりも価格が高い高強度コンクリートは当然、品質も高いものと解釈していた。このような留意点があれば、もっと広い情報提供が必要ではないのか』との指摘を受けました。

この指摘は一般消費材に対する消費者心理に置き換えて考えると当然に思われました。また、提供者側が常識と理解していることほど、利用者に対する説明を見落としやすいことを教訓として教わる機会となりました。



おなじく・あやじ／正会員  
住友大阪セメント(株) 東京支店 技術センター

使命あるコンクリートに…

佐久間 誉義

東日本大震災は、600 km 離れた神奈川の地にも大きな影響をもたらしました。地震で壊れた構造物こそほとんど無かったものの、輪番停電や燃料不足、物流停滞などライフラインの源が脆くも崩壊し、多くの国民を不安に陥れました。そして、日本中が国を挙げて克服・復旧に全力をあげて挑んでいこうという最中、レディーミクストコンクリート製造業の我が社も、震災の発生から 20 日後に緊急支援物資を届けに岩手県大船渡市へ赴きました。避難中に忘れ物を取りに引き返した同僚…。必死の説得にもかかわらず車から降りて避難する人が少なかったこと…。九死に一生を得た方より伺った話からすると、明暗を分けたのは『生きよう』という強い意志もあったようです。災害の発生を防ぐことは出来ないが、災害への備えは可能です。コンクリート診断士が担う社会的な役割の重要性を今一度考え方直し、一日も早い復興へ向けた支援を、私の立場からも行っていきたいと決意をしております。



さくま・たかのり／正会員  
(株)ティーエムスリー 技術課

製造者の立場での診断士の役割

安藤 昌仁

これまで、二次製品の開発および生コン製造の業務に携わってきました。診断士を取得したものの、構造物の点検・診断業務の経験はありません。

製造者の立場として、診断士の取得で学んだ診断技術を、どのように製造技術や製品開発に反映させていくかが課題であります。このなかで、維持管理の負担を軽減できる高耐久性・長寿命化コンクリートの製造が考えられます。

最近、長寿命化の方策のひとつとして、ひび割れによる経年劣化を抑制する低収縮コンクリートの要求が多くなっています。一方、設計者・施工者などの立場で検討できる方策もあります。今後、製造者も様々な立場の診断士と連携し、合理的で経済的な方策を提案する能力が必要になると思います。

社会資本の整備・維持の需要が急増するなか、様々な立場で診断士の役割があると思います。コンクリートに携わる方々が多く診断士を取得され、長寿命化や維持管理の技術発展に貢献することを望みます。



あんどう・まさひと／正会員  
晴海小野田レミコン(株) 技術課長